海外の子どもたちの力になりたい

千葉・成田市立吾妻小の「5年4組ベテラン募金会社」

「困っている人に寄付することは今まで味わったことのない気持ちがしました」

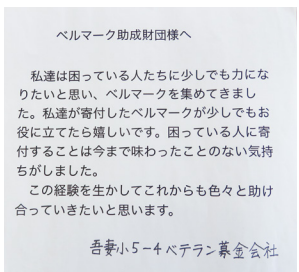
千葉県成田市にある市立吾妻小学校（西﨑祐一校長、児童699人）から昨年10月、協賛会社別に仕分けられたベルマークと手紙が届きました。差出人は「吾妻小5年4組ベテラン募金会社」。さらに今年3月には、「後期分」として2回目の寄贈マークが財団に届いたことから、年間を通して活動してくれたことが分かりました。

どのような会社なのか話を聞くため、同校にうかがいました。会議室に集まってくれたのは9人の子どもたちと、5年4組の担任だった島田康男先生です。「5年4組ベテラン募金会社」は社長の浅野衣咲さん、副社長の髙野友暖さん、社員7人の構成で、この日は全員が集まってくれました。初めは重役の2人だけが来てくれる予定でしたが、「最後までみんなで協力してきた活動だから」と浅野さんが呼びかけてくれたそうです。

活動を始めたきっかけは、道徳の授業で、世界には困っている人がたくさんいる現状を知ったことでした。そのような人たちのために、「募金活動をしたい」と子どもたちが声をあげました。しかし、学校で子ども同士がお金のやりとりをするのは現実的ではありません。島田先生は様々な海外支援団体を調べましたが、多くはお金の寄付を募る活動でした。

そこで、「お金以外で支援できるもの」を検索し続けた島田先生がたどり着いたのがベルマーク。財団に寄贈されたマークは、海外支援にも活用されます。島田先生は「お金の受け渡しが必要なく、学校内での子どもたちの活動にふさわしい」と考えました。

有志を募ったところ、興味を持ったのが9人の子どもたちです。島田先生のアイデアで、あえて「係」ではなく、「会社」を設立して活動することにしました。


ベルマーク助成財団様へ

私達は困っている人たちに少しでも力になりたいと思い、ベルマークを集めてきました。私達が寄付したベルマークが少しでもお役に立てたら嬉しいです。困っている人に寄付することは今まで味わったことのない気持ちがしました。

この経験を生かしてこれからも色々と助け合っていきたいと思います。

吾妻小5-4ベテラン募金会社

㊧「5年4組ベテラン募金会社」の9人。後列左が島田康男先生　㊨㊤マークと一緒に届いた手紙　㊨㊦成田市立吾妻小学校

ベルマークの収集には先生や他のクラスの友達の協力も得ました。整理したベルマークを1回目に財団に送るとき、みんなで決めたのが「吾妻小5年4組ベテラン募金会社」という社名です。「『寄付のベテラン』みたいになりたい」「世界に貢献したい」と、活動に込めた強い気持ちを表しました。

◇

島田先生は4年前から、担任になったクラスで「会社」活動の取り組みを始めました。学校では「係」を設けることが一般的ですが、先生は「やって当たり前として捉えられがち。活動の効果も見えづらい」と感じました。「会社」とし、役員を決め、給料のシールを手渡すことで、「自分たちの頑張りを見える形にし、社会の一員だという自覚も芽生えたら」とのねらいがあります。

「会社づくりいいな、4組に移りたいな」と友だちから羨ましがられた子は、とても誇らしい気持ちになったようです。

財団に30万点寄贈、キャンペーン次々と／キリンビバレッジ

東日本統括本部が贈呈式、新キャンペーンはエリア拡大

協賛会社キリンビバレッジ（ベルマーク番号54）の東日本統括本部は、「東北の元気を応援キャンペーン」の第6・7弾で集まったベルマーク約30万点を財団に寄贈しました。

同社商品のベルマークを4枚集めて応募すると、抽選で東北の名産品が当たるキャンペーンでした。

贈呈式では、同社執行役員の谷川浩二・東日本統括本部長＝**写真左**＝が財団の小野高道常務理事にベルマークの目録を手渡しました。谷川執行役員は「当社のCSV（社会と共有できる価値の創造）戦略では健康、地域、環境への貢献をうたっていますが、この3つがすべてそろっているのが当社のベルマークキャンペーン。支援をこれからも加速させていきたい」と挨拶しました。

◇

東日本統括本部は現在、「東日本の子ども達を応援！ふるさとの魅力を再発見！キャンペーン」を実施しています。同社商品のベルマーク4枚を集めて応募すると、抽選で東北のお米と関信越のご当地カレーのセットが合計90人に、生茶（525ml）1ケース24本入りが100人に当たる企画です。東日本11県（青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島・群馬・茨城・栃木・新潟・長野）のスーパーマーケット・自動販売機にある専用はがき、または市販のはがきでも応募可。締切は7月14日（金）、消印有効です。問い合わせはキリン・キャンペーン事務局（0120-685-036、平日10時～17時）まで。集まったマークは、すべて財団に寄贈されます。

沖縄県限定キャンペーン

沖縄県内の参加団体限定で、ベルマーク点数が2倍になるキャンペーンを実施中です。

キリンビバレッジのベルマークを専用台紙に貼って送ると、点数が2倍になります。10月4日（水）までに財団に到着したベルマークが対象で、専用台紙は1団体5枚が上限です。なお、沖縄県以外の参加団体がマークを貼って送っても、2倍の点数にはなりません。

専用台紙はキリンビバレッジHP（https://www.kirin.co.jp/area/kirin_okinawa_bellmark/）からダウンロードできます。

市内の学校をベルマークで応援

富士見市社会福祉協議会が「大人のベルマーク運動」

埼玉県の富士見市社会福祉協議会（社協）が「大人のベルマーク運動」と題したキャンペーンを実施し、集めたマークを富士見市内の幼稚園や小中学校に寄贈しました。キャンペーンの期間は昨年8月から12月で、一昨年に続いて2回目の実施でした。通年回収しているベルマークと合わせると、前回を超える1万1615点にもなりました。

今回のキャンペーンも東京キリンビバレッジサービスが協力。協賛会社のキリンビバレッジのグループ会社です。キリンビバレッジ商品のベルマークを5点集めて応募すると、抽選で同社のペットボトル飲料1ケースが当たる企画でした。

「大人のベルマーク運動」という名前は、学校から離れてしまった大人が貯めたベルマークの受け入れ先になりたいとの思いから名付けられました。市内のベルマーク運動参加校を応援することを目的とし、年間を通じてキリンビバレッジ以外のマークも回収しています。社協職員の鈴山将史さんによると、施設の利用者が回収箱に入れてくれたり、富士見市役所から使用済みカートリッジの提供があったり、さらには収集について問い合わせもあるなど、「『社協がベルマークを集めている』と広く知られてきている」そうです。

仕分け・集計は、普段から社協でさまざまなボランティア活動をしている一人ひとりに声がけをし、協力をお願いしました。マークは指定の18校に分配し、ベルマーク預金に加算しました。

前回の点数を超えた理由を「懸賞への興味だけでなく、社会のために貢献したいという思いの強まりが反映されたと感じた」と話してくれた鈴山さん。今後も収集への協力を呼びかけていくとのことです。

チラシで「どなたでも何口でも参加可能!!」と応募を促した

23年度予算を承認、常務理事も交代

ベルマーク財団の予算理事会が2月21日、決算理事会が5月10日、評議員会が6月6日にそれぞれオンライン形式で開かれ、2022年度決算と23年度予算などが承認されました。

また、理事、監事、評議員は一部顔ぶれがかわり、常務理事には山崎靖（前朝日新聞社北海道支社長）が就任し、小野高道前常務理事は退任しました。